

第52期 決算レポート

2025年4月1日～2026年3月31日



株式会社ヨンキュウ

▽△▽△▽△▽△▽△▽△ 決算ハイライト(連結) ▽△▽△▽△▽△▽△▽△



POINT 1 | 鮮魚価格の高止まり、生餌の販売数量増加等により増収増益

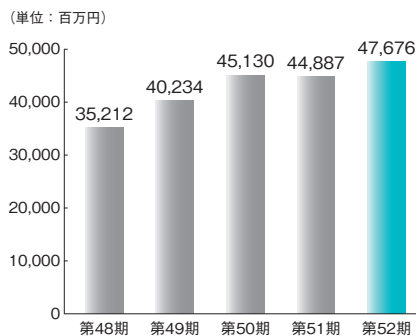


POINT 2 | 投資有価証券売却益を特別利益に計上

売上高

47,676 百万円

対前期比 **6.2%増** ↑



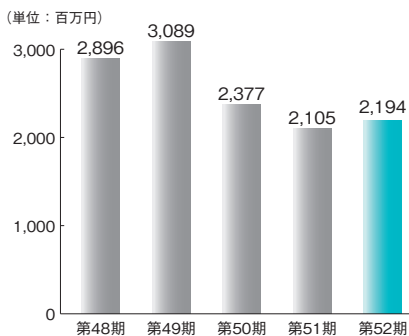
第53期業績予想

対前期比

経常利益

2,194 百万円

対前期比 **4.3%増** ↑



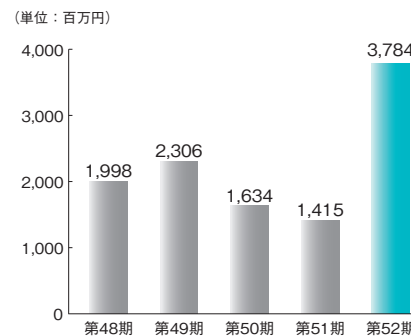
第53期業績予想

対前期比

親会社株主に帰属する 当期純利益

3,784 百万円

対前期比 **167.4%増** ↑



第53期業績予想

対前期比

(注) 第53期業績予想は、現下の中東情勢により不確定要因が多いため未定としています。

株主の皆様へ

わが国の漁業・養殖業は、就業者数の減少、海洋環境の変化、水産資源の減少などによりその生産量は減少傾向が継続しております。特に養殖業においては養殖コストの大部分を占める餌代の高止まりにより採算性が悪化し、さらに中東情勢の緊迫化を背景に燃料や資材費等の高騰も重なり経営環境は一段と厳しい状況となっております。

このような状況の中、当社グループは、取引先や消費者の皆様からの幅広いニーズにお応えするために、引き続き「安定的な収益確保と持続的な成長」を目指してまいります。

その具体的施策として、近年では三崎加工場の新設移転や食品安全システム(FSSC)22000の認証取得などにより、加工事業の強化を図ってまいりました。昨年は、本社及び三崎加工場でEU向け輸出水産食品取扱施設認定(EUHACCP)を取得し、資本業務提携先などを通じて米国向けのほか新たにEU向けの輸出も推進しております。さらに、今後は本社加工場の新設移転なども計画しており、引き続き鮮魚加工事業の強化・拡大を図ってまいります。

また、高コスト体質を抱えた生産者の経営安定化や水産資源の持続的利用、健全な漁場環境の保持を目指して、提携取引先と協力のうへ配合飼料の低魚粉化や配合飼料原料の多様化についても引き続き推進してまいります。

近年、水産資源の枯渇が懸念される中で、養殖業は食糧確保の切り札ともみなされています。当社グループは養殖業へのトータルサポートや、水産Eコラベル(ME L 認証)の取得などにより、水産資源の持続的利用や環境保護にも取り組み、安全・安心な美味しい魚の安定供給を追求し、事業活動を通じて「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成にも貢献してまいります。

これからも消費者や業界の皆様、地域の皆様に信頼される企業として、水産業の発展に貢献できれば幸いに存じます。株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長
笠岡恒三

営業の概況

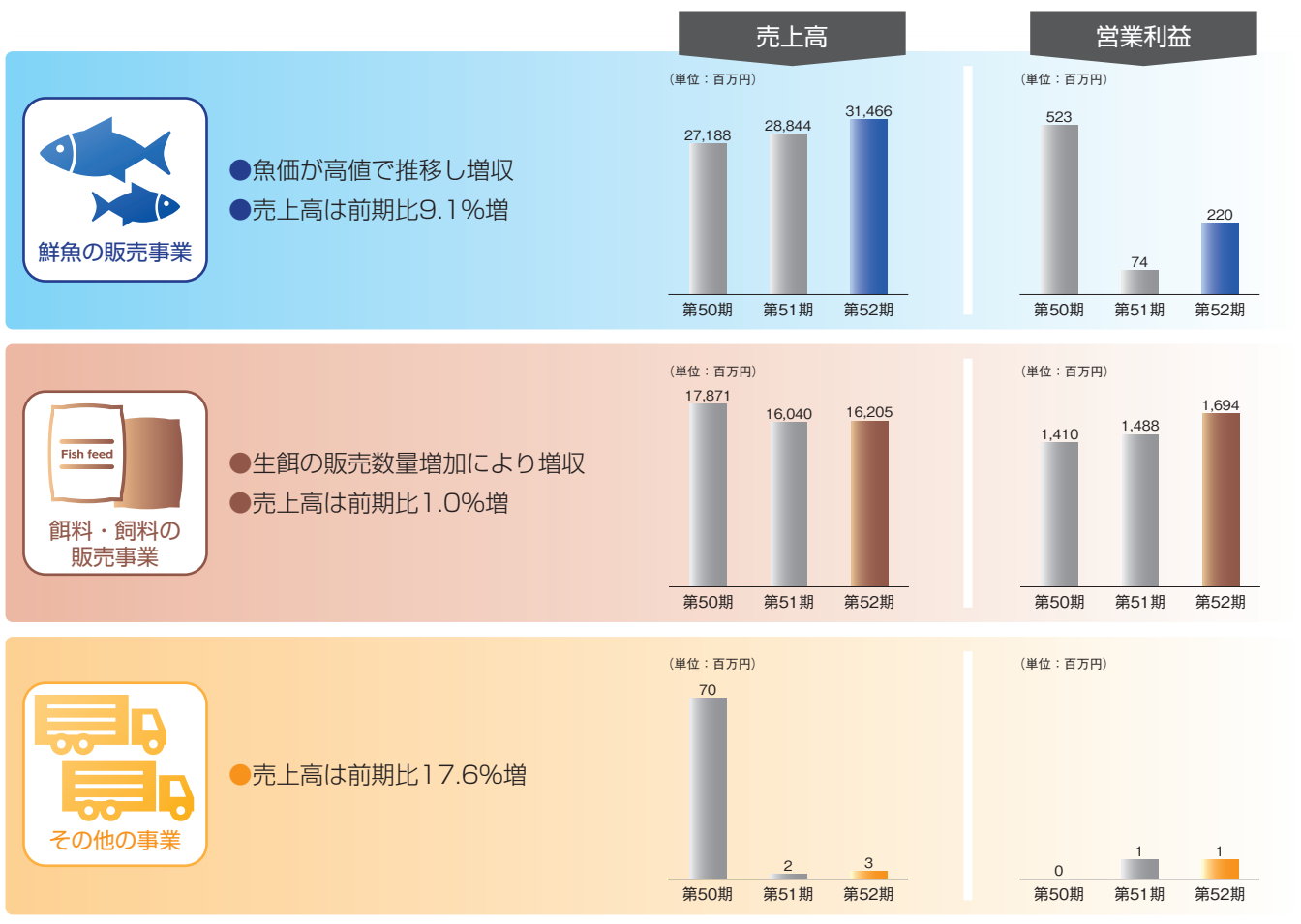
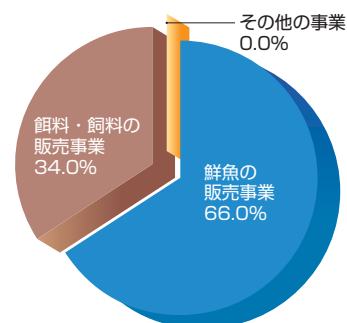
当連結会計年度(2025年4月1日~2026年3月31日)は、イラン軍事衝突勃発により中東地域からの原油供給停滞が長期化する懸念が高くなり、各種資材調達困難や諸物価の上昇が続き個人消費への圧迫を一層強めております。

養殖業界におきましては、気候変動による温暖化の影響により赤潮の発生や海水温の上昇等によるリスク増大、また、配合飼料など原材料価格の高止まり等により、経営環境は厳しい状況が続いております。

こうした状況の中、当社グループの「鮮魚の販売事業」は、魚価が引き続き高値で推移したため増収となりました。また、「餌料・飼料の販売事業」も、生餌の販売数量が増加し増収となりました。

利益面については、養鰻事業が国内需要低迷の中にあって、国産鰻の荷余り感および中国等からの安価な活鰻輸入によって販売価格が一層下落して営業赤字となっております。一方、従前からの中核事業は堅調な業績で推移し、中でも生餌の販売数量増加により連結営業利益は増益となりました。しかし、受取配当金の減少と持分法による投資損益が前年同期は利益であったものが当期は損失となって押し下げ要因となり、連結経常利益は微増にとどまりました。なお、投資有価証券売却益は特別利益に計上いたしました。

売上高構成比



TOPICS

当社は、蒲江種苗センター（大分県佐伯市）で、ウナギのふ化仔魚を稚魚であるシラスウナギまで育てることに成功しました。



(詳細は、2025年9月16日付当社ホームページニュース一覧を参照下さい。)

<http://www.yonkyu.co.jp/irinfo/wp-content/uploads/2025/09/news20250916.pdf>



蒲江種苗センターの実験水槽でウナギのふ化仔魚を約200日育成し、シラスウナギまで育てることが出来ました。今後も、種苗生産技術の向上等により完全養殖への知見を積み重ねてまいります。



蒲江種苗センター
Kamae Seeding Center



蒲江種苗センター

株式情報 (2026年3月31日現在)

発行可能株式総数 26,000,000株
発行済株式の総数 12,290,862株
株主数 6,901名

会社概要 (2026年3月31日現在)

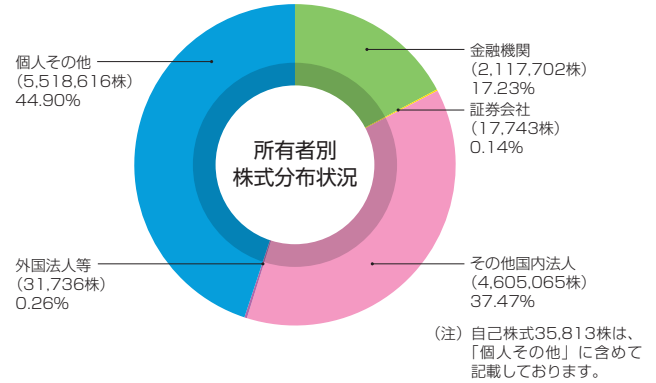
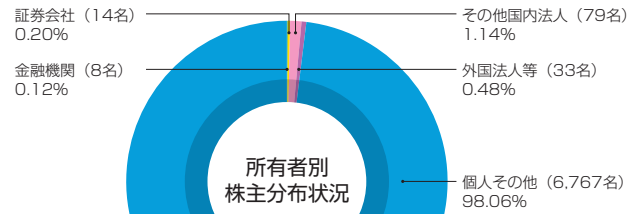
社名 株式会社ヨンキュウ
所在地 愛媛県宇和島市築地町2丁目318番地235
設立日 1963年4月26日
資本金 27億8,501万3,456円
事業内容 鮮魚販売、餌料・飼料販売、
養殖用稚魚の生産・販売
従業員数 109名
子会社 株式会社海昇
四急運輸株式会社
日振島アクアマリン有限責任事業組合
株式会社西日本養鰻
主要取引先 各地漁業協同組合、各地養殖漁業者、
全国中央卸売市場（荷受会社）

役員 (2026年3月31日現在)

代表取締役社長	笠岡恒三	岡繁樹	三樹
取締役相談役	笠岡	岡繁	三樹
専務取締役	清水	水敏	雄
常務取締役	梅田	田敏	三穂
取締役	高川	川英	穂
取締役	廣瀬	了	紀規
取締役	宇都宮	都宮	博史
取締役	山口	口博	悟志
常勤監査役	若松	松和	直
監査役	鈴木	木義	直
監査役	酒井	井啓	司
監査役	日野	野正	浩

ホームページのご紹介

ホームページからも当社の
IR情報をご覧いただけます。
<http://www.yonkyu.co.jp>



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031 (フリーダイヤル)
受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 電子公告

公告掲載URL <http://www.yonkyu.co.jp>
ただし、やむを得ない事由により電子公告とすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場金融商品取引所 株式会社東京証券取引所スタンダード市場

養魚グローバルカンパニー 毎日新鮮・毎日安心



株式会社ヨンキュウ